

同窓会員の皆様：

この5月に、同窓会ホームページで、同窓会別名(別称・愛称)を募集したところ、4人の方から下記のご意見を頂きました。

新しい名称として、「京大地物会」と「京大地球物理同窓会」が提案され、今までに挙がっている候補名を纏めると、次のようになります。

和文： 志田会，地物志田会，北白川会，地物北白川会、追分会，追球会，知球会，京大知球会，花折会，京大地物会 京大地球物理同窓会

英文： KGA, KUGA

引き続き、ご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

この五月以降、新たに寄せられたご意見

水間満郎@気象学・1959年卒です。ご提案の同窓会別称募集につき、知球会に賛同します。京都を冠するかどうかについては、知球会に賛同された方々の多数意見に従います。

なお、花折会について一言しますと、雅味のある名称だとは思いますが、折は挫折の折でもありますので、私は忌み言葉として回避したいと考えます。

以上の通り回答いたしますので、よろしくお取りはからいください。

1954年頃(?)の卒業生、佐橋謙(さはしけん)と申します。同窓会につき、いろいろお骨折りを頂いているようで、感謝です。いままで特に意味があつてではなく、どこか別世界のことように思ってだんまりを極め込んでいましたが、愛称募集ということで反応しました。

私の推薦する名称： 京大地物会

理由： 一般にこういう会合の名前を付けるときに使用される単語は、

- ① その会の偉い人の名前(例えば志田)、
- ② 何をするのか、の何(例えば球)
- ③ どこでするのか、のどこ(例えば北白川)

のうちから、全部または二つ、または一つが使われます。

今回の場合に即して考えるなら、

① については志田先生が偉くないとは決して言いませんが、懐古趣味の感が強くなりますし、個人名というのは地球物理というような広範な分野をカバーするのにちょっと向かないのではないのでしょうか。

② の「球」というのは、今の一般の人々には「地球」のたまよりサッカーのボールを連想するのではないのでしょうか。それに対して「地物」という言葉は、一般の人々にはなんのことだ？ と思われるかも知れないが、私たち地球物理を学んだ者にとっては、これ以上の懐かしい言葉はありません。

③ のどこで？ というのは問題なく「京大で」なのです。

以上が、私の推薦する愛称「京大地物会」の推薦理由です。でもここでちょっと心配が……。 どうしてこんなに良い名前がいままで候補に昇ってこなかったのか？ 私の知らないなにか基本的欠陥があるのですかね？？？

では。

佐橋 謙 (さはし けん)

2011/05/11 11:12:36

恩藤です。

地球物理教室の同窓会に出席しないで、申し訳ありません。 私は、「京大地球物理同窓会」を提案します。

2011/05/11 16:38:28

同窓会の運営、有り難うございます。

同窓会の愛称についてのご連絡を頂きましたので、これまでの経緯を拝見いたしました。その結果、提案者のご意見に賛同して、「京大知球会」に1票を投じさせていただきます。

どうぞ、よろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

大塚 成昭 (Shigeaki OTSUKA)
神戸学院大学人文学部人文学科
